

(1)「トビタテ留学 JAPAN」のプログラムについての私の経験と学び

私は今回のルワンダ留学にあたり、官民共同海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」に応募し、第4期新興国コース生として採択されました。

「トビタテ」という名前については皆さんも一度は聞いたことがあると思います。

トビタテ留学 JAPAN のことを簡単に説明しますと、このプログラムは2014年からスタートしたもので、意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一步を踏み出す気運を醸成することを目的として、世界で活躍できるグローバル人材を官民共同となって育成するものです。

具体的には奨学金給付・授業料全額給付・航空費補助など金銭的な支援と、事前・事後研修などの経験の質向上のためのサポート、トビタテのネットワークを得られます。詳しくはこちらをご覧ください。(http://www.tobitate.mext.go.jp/)

次に、このプログラムに関わってきた経験とそこでの学びについて共有させてもらいます。私は元々ルワンダへの留学をほぼ決めており、学費も欧米に比べればとても安いことを聞いていたので奨学金などもらわずに行こうと思っていたのですが、たまたまホームページで見つけて「落ちるかもしれないけど、とりあえず応募してみるか」と思ってこのプログラムにアプライしました。まずはネットで情報を集めてプログラムについて理解した後、申請書類を書きました。

申請書類では、なぜ留学するのか、なぜその国なのか、そこで何をするのか、留学することで自分はどうなりたいのか、帰ってから留学経験をどう活かすのか、などとにかく自分自身と向き合いながら自分の想いを書きました。国際センターの方や古澤先生に添削もしていただきました。

書類審査通過後は面接に向けて先生方にお世話になりながら準備を進め、本番では持ち前のポジティブさで楽しく乗り切りました。トビタテに応募する人たちは一人ひとり個性があって魅力的で話していてとても楽しかったです。また学生だけではなく、トビタテの事務局の方々や協賛企業の方もとにかく熱い人ばかりで、本気で若者を応援してくれているのだということを実感しました。

合格後の事前研修でもそれは同じで、大学も専攻も年齢も違う人たちと真剣にお互いの留学について考え、日本や世界の問題について考え、夜中まで語り合いました。「トビタテ」という共通点だけで集まった学生たちがたった2日間で互いを理解し、社会に対する想いをぶつけられるのは本当に凄いことだと思います。留学中もお互いに情報交換をしたり、励まし合ったり、切磋琢磨しています。

こうした経験を通して学んだことはたくさんありますが、特に大切だなと思ったことをいくつか書きます。

一つ目は、「とりあえず、やる」ことです。地方公立大の市大生がトビタテなんて、と思う

かもしれませんがこんな平凡な私が受かったのだから皆さんにもチャンスがあります。受かるか落ちるかは分かりませんが、応募しないことには受かるも落ちるもありません。これは決して留学に限った話ではなく、何にでも言えると思います。先のことはどうなるか分からないけどとりあえずやってみる、この一歩を踏み出すことがとても大切だし、これからも自分の中で大切にしていきたいと思っています。

二つ目は、「常に自分と向き合うこと」です。トビタテに関わる中で常に「自分は」どうしたいのかを考えさせられました。他の誰でもない自分の人生をどうしたいのか、どう生きていくのか、考えるのは難しいけど、自分がやろうと思えば何でも出来るのだということにも気づきました。自分と向き合うプロセスの中できっと他人や社会に対する想いも明確になっていくのではないかと思います。

そして「人とのつながり」の大切さにも気づかされました。トビタテに応募するにあたって色んな方からサポートしていただき、トビタテの学生と繋がる中で新しい自分や可能性を見つけるきっかけになりました。他人に気づかされること、もらうことのありがたさを実感しました。私もそういう人になりたいと思います。

たかが奨学金のプログラムで、と思う方もいるかもしれませんが私にとっては本当に学ばせてもらうことがたくさんありました。広島にとどまっていたら絶対に会えないような熱い人たちに出会えたり、経験できなかったことばかりだったと思います。だからこそもっと多くの人に応募してみしてほしいなと思います。

(2)ルワンダでの生活と経験

ルワンダに来て3か月が経ちましたが、日々新しい刺激を受けながら生活しています。

こちらでの暮らしについて簡単に説明すると、平日の日中は読書をしたり勉強をしたり、買い物に行ったりして夕方6時から9時まで大学で講義を受けています。週に1回、JICA協力隊員の方が行っているビジネストレーニングに参加したり、小学校で英語を教えるボランティアも行っていきます。最近ではアフリカの可愛い布で作った洋服を日本人向けに販売する活動に参加し、洋服のオーダー・布の買い付けを行っています。またこれからは、ジェノサイドの加害者家族と被害者家族が協働して行うお花プロジェクトにも積極的に関わり、夏休みにはアフリカ諸国を旅行したり、ジェノサイド被害者（特に障害者）への支援を行うNGOでインターンをしようと考えています。

ルワンダでの生活

私は今、日本人留学生とルワンダ人、コンゴ人の留学生の4人でシェアハウスをして暮らしています。お風呂はお湯が出ないので毎日水シャワーです。（笑）

停電も断水もしょっちゅう起きるし、時間にはルーズだし、やっぱりアフリカだなあと感じることも多いです。

そのような環境でも、シェアハウスの同居人の皆と一緒に料理を作ったり、真剣に議

論をしたり、アフリカンと日本の文化の違いを感じながら楽しくやっています。一緒に暮らす中で大変なこともあります、とにかくお互いの文化や考え方を受け入れ、納得するまで話し合うことを心がけて暮らしています。

大学では **Peace and Conflict Studies** というコースを専攻し、今期は **Peace Building Skills, Nonviolent Social Change, Group Facilitation** という科目群を履修しています。

先生にもよりますが毎回課題があったり、リーディングがあったりします。英語で論文を読むのに慣れていなかったのが最初は辛かったですが、だいぶ慣れてきました。私のいるピアス大学ではルワンダ人だけでなく隣国のブルンジやコンゴからの留学生もおり、みんな英語とフランス語が話せます。クラスでは毎回ディスカッションがあり、英語での発言に緊張しながらも一回は発言しようと心がけています。ネイティブと喋る時よりは緊張せず話せる環境なので、文法的に正しくなくてもとにかく喋って意見を伝えることを意識しています。

授業の内容はどれも面白くて、日本では学べないようなものばかりです。学生たちからは積極的にコメントや質問が出ます。彼らは自分たちの国の政治や文化にとっても精通しており、自分の国の状況に危機感を持つ学生も多いため、授業では具体的な例を用いて理論を学ぶことが出来ます。もちろん私も日本のことをたくさん聞かれるのですが、思っていた以上に自分が日本のことを知らないということに気づかされ、勉強不足だなと感じる毎日です。

また 4 月に機会があって、ルワンダ東部のキレヘを訪れて和解のイベントとプロジェクトの視察をさせていただきました。

私は元々アフリカの紛争と平和に興味を持ち、その中でルワンダのジェノサイドと和解に興味を持ってルワンダに来ました。政府の発表によればツチ・フツの和解はほぼ達成されており、ルワンダは「ひとつ」の国民として平和に暮らしているというのが彼らの主張です。

しかし実際には被害者に対する加害者の補償がきちんとなされていなかったり、謝罪が行われていなかったりと十分に和解が達成されているとは言えない現状もあります。

そのような中で草の根レベルでの和解を進めるプロジェクトがキレヘという地域で行われており、4月の頭に和解のイベントが行われました。イベントではジェノサイド被害者の女性に加害者の男性達が直接謝罪の言葉を述べ互いに抱擁をする姿を目にし、謝罪と赦しの実態を見ることが出来ました。被害者の女性へのインタビューの中で「加害者の直接の謝罪の言葉を聞ければ、私はいつでも赦すことが出来る」という言葉を聞き、彼女の人間としての強さに心を打たれました。赦すことは決して簡単なことではないけれど、不可能ではないということ学びました。また被害者と加害者が共同で養豚を行っている現場を視察し、共同作業によってお互いを受け入れ、理解し、共に生きていく過程が和解に繋がるということ

も知りました。今まで論文でしか見たことのない「和解」が実社会で本当に起きていることを知り、学びとの繋がりを覚えることが出来ました。この視察を通して改めて自分の目で見ることの重要性を実感し、とても良い経験になりました。この貴重な経験を忘れることなく、これからもっと勉強していきたいと思います。

これからの留学生活・将来に向けて

既にたくさんの方をこのルワンダで学ばせてもらっている私ですが、まだまだ時間があるので日々語学と平和学の勉強を必死にやりたいと思います。また同時に、積極的に行動を起こし、たくさん人と会って新しい価値観を得ていきたいと思っています。

私がルワンダで充実した日々を送る一方で、日本にいる同学年の友人たちが必死に就活をしている様子を見ると、まだ自分のやりたいことが「仕事」として明確になっていないことに焦りを感じることもあります。でも焦っても仕方がないし、私は今しか出来ないこと、そしてルワンダでしか出来ないことをとにかく色々やってみようと思っています。

その過程で自分はこれが好きだな、これは向いていないなという軸を見つけて、それが上手く仕事に結び付けばいいなと思います。あと実際にアフリカに来てみてやはり海外、特にアフリカと繋がっていただける仕事がしたいと思いました。まだまだ手探りですが、日々行動する中で少しでもヒントを見つけていければと思います。

ずっと夢だったアフリカに来ることが出来、学びたいことを学ばせてもらえるこの環境にとっても感謝しています。この機会を与えてくださった古澤先生、親身になってアドバイスを下さった西田先生、市大の先生方や国際交流推進センターの職員さん、ルワンダでとても良くして下さる日本人の先生と奥様、応援してくれる友人達、そして未熟者のわがままを許してくれた両親には感謝の気持ちでいっぱいです。

自分自身の初心と、この感謝の気持ちを忘れずに、これからも勉強に励み色々なことに挑戦していきたいと思っています。